

トラブル未然防止！とっておきの語り⑩

神奈川県 宮森裕太

1 トラブル未然防止！とっておきの語りについて

私がこれまで学級通信やクラスの語りで話した内容を集めています。使えるところがあれば、ご自身で学級の実態に合わせて使ってください。

2 目次

- 1 ピンチは成長のチャンス
- 2 スマホの使い方
- 3 よい雰囲気を作れるとクラスはよくなる
- 4 率先垂範
- 5 信頼貯金(山本東矢先生追試)
- 6 待たせる人より待てる人へ
- 7 Time is money. Time is life.
- 8 プラス言葉を増やしていこう
- 9 口動ではなく行動を

3 トラブル未然防止！とっておきの語り

① ピンチは成長のチャンス！

これからクラス対抗の〇〇大会がありますね。

休み時間や体育の時間を使って練習をがんばっていましたね。

先週の練習ではこんなことがありました。

- 1 練習中、話し合っているのにおしゃべりをして話を聞いていない子がいる。
- 2 相談事を一部の子だけでしている。
- 3 失敗したのにふざけている子がいる。

という状況でした・・・。

記録もどんどん下がっていき、雰囲気もあまり良いものではありませんでした・・・。

「もめるかな・・・？」と試みていましたが、案の定、練習が終わると不満をもらす子もいました。

クラスでも話をしましたが、クラスとして大縄大会にどのように向き合うのかももう一度振り返ってほしいと思いました。

クラスでの話し合いで、大縄大会の目的は「クラスとしての団結力を高める」ことです。

みんなで団結しなくてはいけないのに、バラバラだったら、団結力を高めることはできません。

もう一度、目的を振り返って、「全員が同じ方向を向いて全力をつくしてほしい」と思います。

クラスで何かしようとするときは、もめ事は必ずあります。色々な子がいる中ですから、あって当然だと思います。

この〇〇大会でもめたのは先生は、とっても良いことだと思います。

なぜなら、この機会にクラスとして団結できたら、さらに良いクラスになると思うからです。

実際にもめた後、次のようなことを言う子がいました。

女子は男子の気持ちを考えて、男子は女子の気持ちを考えた方がいい

自分たちの言いたいことを言うだけではなく、相手の気持ちを考えることはとっても大事なことです。

この〇〇大会をきっかけにしてお互いのことを考えられるといいですね。

今週の練習では、先週の練習と打って変わって真剣に練習に取り組んでいました。

上手いいかないことがあってもいいのです。

大事なものは、その課題をどう解決するからです。

「全員が同じ方向を向いて全力を尽くせるか」。それができたら、さらに良いクラスになっていきますね。先生は、楽しみにしています。

② スマホの使い方

スマホ・ケータイ安全教室

懇談会で、大きな話題になったのは、お子さんのスマホ(特に LINE やその他友だちとの通信の内容)についてでした。

これから、スマホや携帯電話を持つ子が増えてきます。

そこで、どのようなトラブルや危険性があるのかを知ってほしい・・・と思い、「スマホ・ケータイ安全教室」の授業を行いました。

動画では、次のような内容を勉強しました。

- 1 文字での気持ちのやりとりは本当の思いが伝わらないことがある
- 2 相手が誰なのか、本当のことは分からない
- 3 インターネットの情報はどうも広がる
- 4 スマホは、時間を決めて使う
- 5 歩きながらスマホは使っちゃいけない。

1の「文字での気持ちのやりとりは本当の思いが伝わらないことがある」では、メールの文字だけでは気持ちの伝わり方が違うことを学びました。

メールの内容で、勘違いによってトラブルになる場合があります。送る前にこれで相手に正しく伝わるのか確認したり、メールではなく直接言うか電話で伝えたいという意見が出ました。

2の「相手が誰なのか、本当のことは分からない」では、SNS で知り合っ、連絡を取り合う危険性について学びました。

インターネット上で、友だちをつくる危険性を知り、顔の見える形で友だちをつくっていききたいという話になりました。

3の「インターネットの情報はどうも広がる」では、勝手に人の写真や個人情報を載せることの怖さについてです。

インターネットに写真などを載せてしまうと、それがどうも広がってしまい、消せなくなってしまいます。どうしても載せるときは、本人の許可を得るなど自分ならどうするかという話し合いをしました。

4の「スマホは、時間を決めて使う」では、スマホを長時間使う危険性について話しました。使う時間を決める、夜はふとんに持ち込まないなどの意見が出ました。

5の「歩きながらスマホは使っちゃいけない」では、歩きスマホをすることで交通事故にあうなどの危険性について学びました。

これら動画をもとに、インターネットにまつわるトラブルや危険性について話し合ったり、担任からのメッセージを伝えたりしました。

この一回の授業で終わりにせず、この問題については、これからも伝え続けていきたいと思います。
ぜひ、お家でもスマホや携帯電話を持たせるときには、その危険性やルールについて話し合ってもらえると嬉しいです。

③ よい雰囲気を作れるとクラスはよくなる

「よい雰囲気を作れるとクラスはよくなる」

よい空気を作るとクラス、グループ、組織、チームはよくなり、楽しくなります。

ある例で説明します。

A町とB町でお祭りをしています。同じ大きさのお祭りで同じ日にしています。

A町のお祭りをのぞいてみました。

みんなが楽しそうに声をかけて、盛り上げています。

お店の人をよく見ると、行き交う人に元気にあいさつをしています。

お店の人がいろんな人に話しかけています。そして笑顔で話しかけています。

お客さんも笑顔いっぱい。本当に楽しそうです。

太鼓の音もとっても勢いがよいです。相当練習したようです。感動します。

B町のお祭りをのぞいてみました。何か様子が暗いです。

お店の人をみると、ほとんどの人が下を向いています。

「○○がおいしいよ〜！」などの声かけがありません。

お店の人とお店の人で口げんかをしている人もいます。

また、お店の人は何かめんどくさそうに、「とうもろこしを売っているよ。」と言っています。

太鼓の音は何か適当です。たたく人はしんどそうにしています。

さて、みなさんはA町のお祭りとお祭り、どちらに行きたいですか。

おそらくほとんどの人がA町を選ぶでしょう。でも、それはなぜなのでしょう。

別にあなたが嫌なことをされているわけではないですね。そうなのです。

あなたはお祭りの雰囲気を選んだのです。そちらに行きたいと。

いい雰囲気というのは、プラスの声かけがある。笑顔で人を安心させる。一生懸命な人が多いです。そういうお祭りにいくと、何か期待できますよね。

やさしくしてくれそうだなとか、料理も一生懸命に作ってくれそうとか。

何より、そういう場所にいると安心できますよね。

これは、クラスでもまったく同じだということです。

あなたがもし、このクラスをA町のお祭りのように居心地のよいクラスにしたいならば、

あなた自身がよい雰囲気を作っていかなければいけません。

それは、人を大切にする元気なあいさつ。人を気持ちよくさせる態度、行動です。

その行動がよい雰囲気（空気）を作ります。

実は「楽しくて平和で安心できるクラス」というのは、あなたたちのこうした少しずつのプラスの行動で作られるよい雰囲気なしでは有り得ないのです。

何もしていないお客さんがいては、クラスはよくなっていきません。

お祭りでお客さんがいるのはOKです。でも、ここはクラスですね。

将来、組織やグループの中で成長していく、楽しく過ごす練習も兼ねている場所です。

ぜひともこのクラスの中で、さらに良い行動をバンバンして、みんなが安心できる雰囲気をつくって、いいクラスにしていきましょう。先生も努力します。

④ 率先垂範

率先垂範

林間学校の準備が本格的にスタートしました。

これから各グループで準備したり、班で活動することも多くなってきました。

そこで、大切なことを覚えてほしいと思います。

みんなで行動するとき、人任せにせず自分が一番先に行動してほしいのです。

自分が率先して動くことを・・・

率先垂範(そっせんすいはん)

と言います。

この「率先垂範」を意識してほしいのです。

林間学校の準備や林間学校で活動や準備が忙しくなってきます。

その時に「誰かがやるから自分はいいや～」では、協力するとはいえません。

また、「〇〇さん、これやって！」と押し付けるのは、みんなでつくる林間学校とはいえません。

自分の仕事ですから、自分から進んで取り組んでほしいです。

⑤ 信頼貯金(山本東矢先生追試)

信頼貯金

～良い行動を積み重ねて、信頼される人間になろう～

木曜日の道徳の時間に「信頼貯金」の授業をしました。見えないのですが、私たちは出会った全ての人全てに信頼の通帳ができていようなものだという話をしました。

例えばA君がいたとします。この人の他の人への信頼貯金を見てみます。(本当は目に見えないのですが・・・)

B君には信頼貯金 4000 円(信頼してもらえている状態。仲が良い状態)

Cさんには信頼貯金 500 円(普通な状態)

D君には信頼貯金－1000 円(信頼が少ない状態。)

A君が借りたものを返すのが遅れた場合、

それぞれどんな対応をするのでしょうか。

B君 信頼貯金－500 円→信頼貯金の残り 3500 円

「ああ、気にしないで。また返してね。」(心の中→Aなら明日絶対持ってくるよ)

Cさん 信頼貯金－500 円→信頼貯金の残り・・・0円

「うん。次はもってきてね」(心の中→「ちゃんと持ってきてほしいな」)

D君 信頼貯金－500 円→信頼貯金は－1500 円

「えー。しょうがないな」(心の中→「次はもう貸すのはやめよう。ひどいな」)

高い人ほど、友だちが多くなります。また助けてくれる人がたくさん増えます。

逆に信頼貯金が高いと友だちが少なくなるかもしれません。また助けてくれる人が少なくなってしまうかもしれません。それではクラスにいることは楽しくなくなってしまいます。

自分の信頼貯金を増やすことはそう難しいことではありません。

小さな親切をしたり、プラス言葉を言ったりすればいいのです。

つまり、プラスの関わりをたくさんしていけばいいのです。

信頼貯金を増やす場はたくさんあります。

例えば、給食の準備を率先して行うこと。掃除を人一倍頑張ること。困っている友だちに手を差し伸べることなどです。

良い発言、良い行動をすると信頼が広がります。

相手のことを考えてよいクラスにしていきたいなと思います。

このことを提唱したのはスティーブン・R・コヴィー博士という人です。

コヴィー博士は、著書「7つの習慣」で信頼貯金のことを述べていました。

コヴィー博士は「信頼貯金の額で、周りの人の反応が変わる」と言います。

しかし、本当に良い行動をすればいいのでしょうか？それについて大阪大学は「情けは人の為ならず」を科学的に実験したのです。

例えば、AさんがCさんのボタンをとめてあげました。

それをBさんがみていました。すると、BさんはふだんからAさんに親切にするようになりました。特に、Aさんから優しくされたわけでもないのです。

もちろん、AさんはCさんからも親切をうけます。

大阪大学はこのような親切にする子を見続けました。すると・・・

親切にすると、親切な行動などが12倍も返ってくるという研究結果が出たのです。

この実験を通して、「人は、親切な人に親切したくなる」ということが分かりました。

自分から親切にすることで、その親切が自分に還ってきます。

相手のことを考えて、動き良いクラスにしてほしいなと思います。

⑥ 待たせる人より待てる人へ

待たせるより、待てる人に

学校生活は、「個」ではなく、「集団」の中の一人として行動しています。

整列や朝の会のあいさつ、給食の準備、移動教室で並ぶときなどです。

そのような場面でいつも周囲を待たせてしまう人はいませんか？

反対に、そのような人たちを静かに待っている人たちが必ずいます。

その人たちは、自分ではなく、全体に合わせることの大切さを知っています。公にふさわしい行動ができる人なのですね。

「待てる人」と「待たせる人」どちらが人間としての力があるのでしょうか。

どちらが友達から信頼される人でしょうか。

当然、「待てる人」だと思います。

自分のことよりも先に、相手のことを考えて行動することを心がけましょう。

誰よりも先に動く。これを心がけようね。

たとえば掃除場所に一番に行く。給食で一番に並ぶ。体育で一番に外に出る。

これを意識してみてくださいね。がんばろう！！

⑦ Time is money. Time is life.

Time is money. Time is life.

ゴールデンウィークが終わりました。

気が付けば、4月が終わってしまいました。

1年間の1/12が終わってしまったことになります。

人間の命に限りがあるように、時間には何でも限りがあります。

このクラスで学ぶことができる時間には限りがあります。

みんなと勉強したいこと、教えたこと、○年○組の仲間でやりたいことは、山のようにあります。

でも、教えたことを全て教えること、やりたいことを全て行うことは不可能です。

時間が足りません。

1分1秒でも時間が惜しい。

なぜ、連休明けの学級通信でこの話題を取り上げたのかというと、けじめのない時間、だらだらとした時間、自分たちで考えず動かず指示を待っている時間がGW明けに見られることが多いからです。

質の高い教育活動を行っていくためには、時間を有効に使うことが必要になります。

時間を上手に使えるクラスと上手に使えないクラスとでは、学力も異なってくると考えています。

時間に余裕があるクラスでは、例えば国語の課題について深く話し合ったり、算数でたくさんの練習問題を行ったりすることができますが、時間に余裕がないクラスは、話合いの時間がとれなかったり、算数の練習問題ができなかったりします。

1日24時間を25時間に増やすことはできませんが、無駄な時間をなくすことで、使える時間を増やすことはできます。

原則は次の3つです。

・ ・

みんなのことが先、自分のことは後。

5分前行動。

授業では、人の話を黙って聞く。

・ ・

これに反する行動は、みんなの時間を奪うことにつながります。

Time is money. Time is life.

時は金なり、そして命です。

その大切な時間を奪うのです。

以下、思いつくまま、時間を増やすことができる場面を記します。

① 8時20分までに宿題を提出し、ランドセルをロッカーにしまい、着席する。

(朝の会の係になっている人は前に出ている。)

② 8時20分になったと同時に、朝の会をスタートする。

③ 休み時間になる前に、次の時間の準備をしておく。

(これができたら素晴らしいですね!)

④ 時間通り授業をスタートする。

⑤ 授業が始まった瞬間、フルスロットル。

⑥教室移動で並ぶときは、素早く並ぶ。声を掛け合う。

⑦体育の着替えを素早くする。

女子が教室に入るタイミングについて声を掛け合う。

⑧給食の準備と片付けを素早くする。(これは、昼休みの時間に関わる。)

⑨掃除を素早く始める。

たくさんありますが、自分のできるところからやっていきましょう。

自分からやることも大切ですが、みんなで声をかけていけると素敵ですね。

⑧ プラス言葉を増やしていこう

プラス言葉を増やしていこう

道徳の時間にプラス言葉とマイナス言葉について話をしました。

まず、プラス言葉とマイナス言葉を黒板に書きだしました。

プラス言葉

ありがとう うれしい すごいね さすが

マイナス言葉

だめ できない ださい 下手

などです。

それを1つずつ音読しました。そして「プラス言葉を言ったらどんな気持ちができるか」聞きました。

「気持ちがいい」や「いい気分ができる」などの意見が出されました。

次に、「マイナス言葉を言った感想」を聞きます。「嫌な気持ち」というのが多かったです。

「プラス言葉とマイナス言葉。どちらの言葉が多いクラスの方がいいか？」尋ねました。

挙手させると、「プラス言葉の方がいい」という子が全員です。

これらをうけて、子どもたちに次のように話しました。

プラス言葉は、見ているだけでも、気持ちがいいのです。

言う人も、聞く人も気持ちがいいんだよ。と。

すぐには、なかなかできないものです。そこで、隣の人を褒めるワークを行いました。

隣の人の良いところを5回ずつ言わせます。

褒められてどうだった？

笑ったり、照れている子もいたけど、これが悪口だったらどうなると思う？

嫌だよ。

このクラスにどんどん、プラス言葉を増やしていきましょうね。

と言いました。

プラスの言葉を増やすように意識するだけで、クラスの雰囲気も明るくなります。

プラス言葉を意識すると、友だちの良いところにも気づき、何より、自分が前向きになれる。

ぜひ、この一年間意識してほしいです。

プラス言葉が増えるようにがんばってほしいです。

⑨ 口動ではなく行動を

口動ではなく行動を

「先生がいなくても動けるクラスにする」こと。
それが1年間かけてみんなに頑張ってもらいたいことです。
学校生活ですから、いろいろなことがあります。
先生は、本当に力がある子は、

先生がいてもいなくても同じように頑張れる子

だと思っています。

例えば、掃除。机運びの子たちや渡り廊下の子たちは、先生がいてもいなくても同じように頑張っていたと思います。(ほかにも自分の持ち場で頑張っている子もいますね。ごめんなさい。)

「誰でも、誰とやっても同じようにできる」というのは、大人になっても大事なことです。

例えば、大人になって自分と合わない上司がいたとしましょう。いくら合わないといっても誰とでも一生懸命できないと周りからは信頼されません。

どこでもだれとでも一生懸命できる人になってほしいと先生は思っています。

学校はそれを学ぶ場でもあります。

もし、授業中や掃除、給食の時間で周りの動きがあまりよくないとき、みんなはどうしますか？

(一年間過ごしていれば、当然あることです。)

周りに流されてしまうのか・・・。それとも何も言わないのか・・・。逆に、自分は進んで動いて周りに声をかけられるのか・・・。

流されることなく、ただ見ているだけではなく。

クラスのために何が必要なのか考えて行動できる子たちを待っています。

ある子に日記に、以下のようなことが書いてありました。

自分の意見をきちんとと言える子は立派だと思いました。私はいやな思いをしたら、と思っていたけど、本当はきちんとと言える人の方がやさしいんだと思いました。

本当にその通りです。見ているだけでは変わりません。

クラスをよくするためには何をすればいいか。

考え抜いて、行動して、みんなのために動いてごらん。

行動した分だけ、現実が変わります。

クラスを思って、行動する子たちを先生は全力で応援します。

⑩ 利他

利他(りた)という言葉があります。

「他人のために動く」という意味です。

人間は、支え合って生きています。

自分のために頑張ると同時に、他人のために動くことも大切です。

利他の行動をする人は、必ず周りからも大切にされます。

誰かが見ていなくてもです。世の中は、与えた分が自分に返ってきます。

例えば、朝教室に来て進んで窓を開けるのも利他です。窓を開けることによって、教室の空気がきれいになるからです。

例えば、体育で事前にコーンやボールを準備するのも利他です。また、体育館に入った時にすぐに扉をあげてくれるのも利他です。その分、全体の練習がスムーズに進むからです。

例えば、あいさつを元気よくさわやかにするのも利他です。相手を良い気分にするからです。

例えば、整列の際、「前にならへ」と声をかけてくれる子も利他です。全体の方向性をはっきりと示してくれるからです。

例えば、落ちているものを拾う、乱れているものをそろえてあげるのも利他です。落ちているものをそのままにしてあげるとその子が困ります。それを助けています。乱れているものをそろえてあげるとその人が次に気持ちよく使えます。また、そろった状態のものをみていると心が落ち着いてきます。(バラバラの部屋にいるより、きれいな部屋にいた方が気持ちがいいものです。)

例えば、掃除が終わった後に、ノートを配ってくれる子も利他です。掃除が終わった後に、ノートを配ってくれることで、次の活動を素早く行うことができます。

このクラスには本当にたくさんの利他が増えるようになりました。

特に給食の準備では給食当番でないのに配膳の手伝いをしてくれる子がいます。

先生は嬉しいです。なぜなら、利他が増えると自分を磨けるだけでなく、クラス全体が信頼をふやしていき、仲良くなっていくからです。よいことの恩返しがあふれるから、仲良くなりやすくなります。

利他の行動を増やしていったら、もっともっと素敵なクラスにしていきたいなと思います。